

微分方程式に関する講義の補足メモ (H18 電電 1 年次向け / 担当 : 山中・宮島)

備考 : このメモは , 線形常微分方程式の講義 ( 微分積分 の始めの 2 回の授業を使用 ) と演習を行なうにあたり , 下記の教材を補完するためのものである . なお , 受講者の理解度に応じて , さしあたり  $n$  が 1 と 2 の場合に限定してもよい .

記 工学基礎ミニマム研究会編 , 数学ミニマム改訂第 2 版 , 第 6 章 , 学術図書出版社

## 0 線形斉次方程式に関する例題

**例題 1** つぎの微分方程式の初期値問題を解け . ただし ,  $k$  は実定数とする .

$$\frac{dy(t)}{dt} + ky(t) = 0, \quad -\infty < t < +\infty, \quad y(0) = 1$$

**解答例** 特性方程式  $\lambda + k = 0$  を解くと ,  $\lambda = -k$  . これから ,  $y(t) = be^{-kt}$  の形の解があることが判る . 与えられた初期条件を満足するには ,  $b = 1$  でなければならないので ,

$$y(t) = e^{-kt}, \quad -\infty < t < +\infty$$

となる . 解の一意性により , これ以外に解はない .

**例題 2** つぎの微分方程式の初期値問題を解け .

$$\frac{d^2 y(t)}{dt^2} + y(t) = 0, \quad -\infty < t < +\infty, \quad y(0) = 0, \quad \frac{dy}{dt}(0) = 1$$

**解答例** 特性方程式  $\lambda^2 + 1 = 0$  を解くと ,  $\lambda = \pm i$  . これから ,  $y(t) = b_1 e^{it} + b_2 e^{-it}$  の形の解があることが判る . 与えられた初期条件を満足するには ,  $b_1 = 1/2i$  ,  $b_2 = -1/2i$  でなければならないので ,

$$y(t) = \frac{1}{2i} e^{it} - \frac{1}{2i} e^{-it} = \sin t, \quad -\infty < t < +\infty$$

となる . 解の一意性により , これ以外に解はない .

**例題 3** つぎの微分方程式に対し , 実数値をとる解をすべて求めよ .

$$\frac{d^2 y(t)}{dt^2} + y(t) = 0, \quad -\infty < t < +\infty$$

**解答例**  $y(t)$  ,  $-\infty < t < +\infty$  を任意の解とする .  $a_0 = y(0)$  ,  $a_1 = \frac{dy}{dt}(0)$  とおくと ,  $a_0$

と  $a_1$  はともに実数である . そして , 解の一意性により ,  $y$  をつぎのように表わすことができる ( 例題 2 を参照 ) .

$$y(t) = b_1 e^{it} + b_2 e^{-it} \quad ( b_1 + b_2 = a_0, \quad ib_1 - ib_2 = a_1 )$$

丸括弧の中の連立1次方程式を解いて  $b_1$  と  $b_2$  を確定し、オイラーの公式を使うと、

$$y(t) = a_0 \cos t + a_1 \sin t$$

となる。逆に、これが解であることは自明である（代入せよ）。よって、すべての解はつぎのように表される。

$$y(t) = a_0 \cos t + a_1 \sin t, \quad -\infty < t < +\infty \quad (a_0 \text{ と } a_1 \text{ は実の任意定数})$$

## 1 非斉次方程式の解

つぎの形の微分方程式を考える。

$$\frac{d^n y(t)}{dt^n} + c_{n-1} \frac{d^{n-1} y(t)}{dt^{n-1}} + \cdots + c_1 \frac{dy(t)}{dt} + c_0 y(t) = u(t), \quad -\infty < t < +\infty \quad (0)$$

ここに、 $c_0, \dots, c_{n-1}$  は与えられた実定数、 $u$  は与えられた区分的連続関数を表わす。

このとき、初期条件（最後の式に注意せよ）

$$y(0) = \frac{dy}{dt}(0) = \cdots = \frac{d^{n-2} y}{dt^{n-2}}(0) = 0, \quad \frac{d^{n-1} y}{dt^{n-1}}(0) = 1 \quad (1)$$

を満足する、斉次方程式

$$\frac{d^n y(t)}{dt^n} + c_{n-1} \frac{d^{n-1} y(t)}{dt^{n-1}} + \cdots + c_1 \frac{dy(t)}{dt} + c_0 y(t) = 0, \quad -\infty < t < +\infty \quad (2)$$

の唯一つの解を  $g$  で表わすことにすると、初期条件

$$y(0) = \frac{dy}{dt}(0) = \cdots = \frac{d^{n-1} y}{dt^{n-1}}(0) = 0 \quad (3)$$

を満足する(0)の解のひとつをつぎのように表わすことができる。

$$y(t) = \int_0^t g(t-s)u(s) ds, \quad -\infty < t < +\infty \quad (4)$$

**演習** 右辺を逐次微分することにより、(4)が(0)の解であることを確かめよ。

ヒント：(4)の右辺を  $t$  で微分すると、 $g(0)u(t) + \int_0^t g'(t-s)u(s) ds$  となる。

つぎに、一般的な初期条件

$$y(0) = a_0, \quad \frac{dy}{dt}(0) = a_1, \quad \dots, \quad \frac{d^{n-1} y}{dt^{n-1}}(0) = a_{n-1} \quad (5)$$

を考えよう。 $a_0, \dots, a_{n-1}$  は与えられた実定数である。この初期条件を満足する(2)

の解を、 $f(t, a_0, \dots, a_{n-1}), \quad -\infty < t < +\infty$  と表わすことにすると、

$$y(t) = f(t, a_0, \dots, a_{n-1}) + \int_0^t g(t-s)u(s) ds, \quad -\infty < t < +\infty \quad (6)$$

が求める唯一つの解である。

**演習** (6) が(0)(5)の唯一つの解であることを証明せよ。

ヒント：これが解のひとつになっていることは，線形性から直ちに判る。一意性については，ふたつの解を想定し，それらの差が満足する方程式を導け。

さらに，解の具体的な形を求める。以下では，代数方程式

$$\lambda^n + c_{n-1}\lambda^{n-1} + \dots + c_1\lambda + c_0 = 0 \quad (7)$$

が相異なる  $n$ 個の根  $\lambda_1, \dots, \lambda_n$  をもつ場合のみを扱う。齊次方程式に対する前の議論により， $f$ と $g$ はつぎのように表わされる。

$$f(t, a_0, \dots, a_{n-1}) = \begin{pmatrix} e^{\lambda_1 t} & \dots & e^{\lambda_n t} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \lambda_1^0 & \dots & \lambda_n^0 \\ \vdots & \dots & \vdots \\ \lambda_1^{n-1} & \dots & \lambda_n^{n-1} \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} a_0 \\ \vdots \\ a_{n-1} \end{pmatrix}, \quad (8)$$

$$g(t) = f(t, 0, \dots, 0, 1) = \begin{pmatrix} e^{\lambda_1 t} & \dots & e^{\lambda_n t} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \lambda_1^0 & \dots & \lambda_n^0 \\ \vdots & \dots & \vdots \\ \lambda_1^{n-1} & \dots & \lambda_n^{n-1} \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 1 \end{pmatrix} \quad (9)$$

$g$ が $f$ の特別の場合として得られることに注意せよ。

## 2 非齊次方程式に関する例題

**例題 4** 初期値問題： $\frac{dy(t)}{dt} + y(t) = \mathbf{1}(t) \sin \omega t$ ,  $-\infty < t < +\infty$ ,  $y(0) = 0$  を解け。ここ

に， $\mathbf{1}$ はつぎのような関数を表わす。  $\mathbf{1}(t) := \begin{cases} 0 & (t < 0) \\ 1 & (t \geq 0) \end{cases}$

**解答例** 対応する齊次方程式の初期値問題

$$\frac{dy(t)}{dt} + y(t) = 0, \quad -\infty < t < +\infty, \quad y(0) = 1$$

の解を  $g$  とすると， $g(t) = e^{-t}$  となる（例題 1 を参照）。これから，公式(G)により，

$$y(t) = \int_0^t e^{-(t-s)} \mathbf{1}(s) ds = \begin{cases} 0 & (t < 0) \\ 1 - e^{-t} & (t \geq 0) \end{cases}$$

を得る。

**例題 5** 初期値問題： $\frac{dy(t)}{dt} + y(t) = \sin \omega t$ ,  $-\infty < t < +\infty$ ,  $y(0) = a$  が，

$$y(t) = A \sin(\omega t - \phi), \quad -\infty < t < +\infty \quad (A > 0)$$

の形の解をもつように  $a$  を定め，併せて解を求めよ。ただし  $\omega$  は正の定数。

**解答例** 公式(G)における  $f$  と  $g$  は, この問題に対してつぎとなる.

$$f(t, a) = ae^{-t}, \quad g(t) = e^{-t}$$

これから, 与えられた初期値問題の解は,

$$y(t) = ae^{-t} + \int_0^t e^{-(t-s)} \sin \omega s ds = \left( a + \frac{\omega}{\omega^2 + 1} \right) e^{-t} + \frac{\sin \omega t - \omega \cos \omega t}{\omega^2 + 1}$$

となる. したがって,  $a = -\frac{\omega}{\omega^2 + 1}$  のとき,

$$y(t) = \frac{\sin \omega t - \omega \cos \omega t}{\omega^2 + 1} = \frac{1}{\sqrt{\omega^2 + 1}} \sin(\omega t - \tan^{-1} \omega)$$

の形の解が得られる.

**例題 6** 初期値問題:  $\frac{d^2 y(t)}{dt^2} + y(t) = \mathbf{1}(t)$ ,  $-\infty < t < +\infty$ ,  $y(0) = 0$  を解け.

**解答例** 公式(G)における  $g$  は, この問題に対してつぎとなる (例題 2 を参照).

$$g(t) = \sin t$$

よって, 解は,  $y(t) = \int_0^t \sin(t-s)\mathbf{1}(s) ds = \begin{cases} 0 & (t < 0) \\ 1 - \cos t & (t \geq 0) \end{cases}$  となる.

**例題 7** 初期値問題:  $\frac{d^2 y(t)}{dt^2} + y(t) = \sin \omega t$ ,  $-\infty < t < +\infty$ ,  $y(0) = a_0$ ,  $\frac{dy}{dt}(0) = a_1$  が,

$$y(t) = A \sin(\omega t - \phi), \quad -\infty < t < +\infty \quad (A > 0)$$

の形の解をもつように  $a_0$ ,  $a_1$  を定め, 併せて解を求めよ. ただし,  $\omega$  は 1 より小さい正の定数とする.

**解答例** 指定された解の形を代入すると, つぎの等式が得られる.

$$(-\omega^2 + 1) A \sin(\omega t - \phi) = \sin \omega t$$

この式は,  $((1 - \omega^2) A + \cos \phi - 1) \sin \omega t - (1 - \omega^2) A \sin \phi \cos \omega t = 0$  と書きなおせるので,

$$((1 - \omega^2) A + \cos \phi - 1) = 0, \quad (1 - \omega^2) A \sin \phi = 0$$

でなければならない. これから,

$$\sin \phi = 0, \quad \cos \phi = -1, \quad A = \frac{2}{1 - \omega^2}$$

となる. すなわち, 上の微分方程式の解は

$$y(t) = \frac{2}{1 - \omega^2} \sin(\omega t - \pi), \quad -\infty < t < +\infty$$

であり, したがって  $a_0 = 0$ ,  $a_1 = \frac{2\omega}{1 - \omega^2}$  でなければならない. この  $y$  が, これら

の  $a_0$ ,  $a_1$  に対応する初期値問題の唯一解であることは容易に確かめられる.